

2006 年 2 月 1 日発行  
 発行人：徳丸 公義  
 発行所：神戸市中央区海岸通 8  
 神港ビルヂング 5 階 509  
 TEL：078-393-0050  
 FAX：078-393-0051  
 E-Mail：[kobekeio@dream.ocn.ne.jp](mailto:kobekeio@dream.ocn.ne.jp)  
 URL：<http://www.kobekeio.org/>  
 編集：堀 友子・八巻 晤郎

～～賀詞交歓会レポート～～

平成 18 年 1 月 5 日（木）は神戸慶應倶楽部の活動開始日、開室を待ちわびての集まりで、2006 年度（平成 18 年）の順調なスタートを切りました。

次々に参集する会員は「おめでとう。今年もよろしく。」と挨拶を交わし、正月ならではの雰囲気。事務局糸海さんが新年らしくお酒、お寿司、おつまみ等を取り揃え、特に今年は昨年のように買いに走るような事のないようにお酒も十分に用意してくれていたお陰で、皆さん紅顔（厚顔？）の美少年よろしく、ほろ酔い気分の上機嫌。

話題豊富な面々、時間制限付きのスピーチもどろんどろん膨らみ、途中でストップがかかるほどの盛り上がりよう。

さて、賀詞交歓会の目玉とも言える「マジック」のご披露。



先陣は仕事の休憩時間に駆けつけた塚本世話人（平 9 総）の「ハンカチマジック」。リーダーだけに手際よく 1 回限りでリピ

ートはなし！

入れ替わりに八巻会員（昭 40 経）の「コッ



プが消えた？」ん～～タネを明かされ「ああそう

か～！」と口の上手いマジシャンに皆だまされました。

さて真打登場。角谷会員（昭 32 政）は持参のマジックバッグ（どこでもポケット？）から、やおら「特大カード」を取り出し見事騙しに成功。2 発目、水を使ったマジックはなぜか蒸発するはずの水が寒さのためか？こぼれてしまうというハプニングも…これもお正月ならではのお年玉かも。

いつものことながら、時間延長とともにお酒も底をつき、やむなくのお開きとなりました。この日の出席者は 25 名でした。



その後倶楽部ルームを出られてからの皆さんの足取りについては不明です…。

(ほ)

～～ 1 月定例会レポート～～

浦上 忠文（昭 44 法）

1 月 27 日（金）。倶楽部での例会は 18 時半から始まります。しかし、いつもは定刻に行くと、既に宴会は始まっており、机に向かって座れず、気合負けするのが通例でありました。

今年は、机席を確保するぞ！と、勢いを付けて

時間前に到着しました。弁当は、まだ到着しておりませんが、ピーナッツと柿の種宴会は「2008年の慶應義塾150周年寄附金」をテーマに、既に大いに盛り上がりおりました。神戸市議員を務めさせて頂いております私は、街でよく声をかけられます。「あんた、慶應やったなー。わし、早稲田や。応援してるで」「?」「東京に住んでいるんですけど、私の弟の嫁の妹の主人が慶應ですの。頑張ってください」「?」ああ、慶應義塾のお陰です。

ことし還暦を迎えさせて頂きますが、人生のすべてが塾のお陰です。

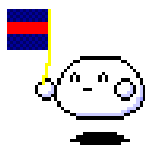
41年前の政治学科入学、そこで学んだ「独立自尊」。37年前に入社した大丸三田会での厳しい愛のムチ。神戸慶應倶楽部、芦屋三田会、関西不動産三田会の皆さまからの暖かいご指導。感謝、感謝であります。借金してでも寄附するぞ!の意気が湧いてまいります。

昔、文学部に辛口粹人で名高い池田弥三郎という教授がいたことを覚えておられるでしょうか。40年ほど前に「女子大生亡国論」という本を著し、話題になったことがあります。教授の主張は「私

学は、寄附によって成り立っている。女子大生が勉強するのは大いに結構だけど、彼女たちは卒業すると、家に入ってしまう。多くの寄附を望めないのである。私学の勢いが衰えれば国が減ぶ」というものでした。

神戸慶應倶楽部は、女性会員の皆さまともども頑張りたいと思います。

この日の定例会は、「150周年寄附談義」一色で、大いに楽しめました。愛塾精神のエネルギーを満喫した夕べでした。ありがたいことです。



## 【慶雲應輝】

映画『ALWAYS 三丁目の夕日』を観た。泣いた。人目を憚らず泣いた。高度に経済発展を遂げた「豊かな」現代の日本人が失っていた「他人の幸せを願う心」を思い起こさせてくれた。

思うに、人間の行動の動機付けには二つある。一つは「自己の幸せ」片方は「他人の幸せ」である。

「金儲けしよう」などという動機は前者であり、「社会に貢献したい」というのが後者である。戦後、日本人は前者の行動が多くなり過ぎたのではないだろうか。

時に、自分の幸せ(利益)の追求は他人の不幸(不利益)になることがある。これは更に性質が悪い。建築構造計算の偽装などはまさにこれにあたる。

以前、日本人には「道徳」という言葉があった。「道徳」とは自分がとった行為が最後には他人や社会のためになるということである。

戦後の極端な個人主義が招いた弊害であろう。確かに儒教思想を戦時中の指導者が利用して全体主義で日本を誤った方向に導いたことは確かである。

福澤先生は科学を重んじ、儒教思想を排斥しようとした。それは儒教思想が時の権力者が本来親子間の教えである孝道論を、権力を正当化し上下身分制を維持するための道具に利用されるからであり、全ての道徳を否定したわけではない。事実、学問のすすめの中で、「人類は自分の取り柄を世に役に立てたいという本能があり、だからこそ人間は社会に対する義務を果たせるものである。昔からそのような人間がいたからこそ今の文明社会があるのだ(要約)」と言われている。

(瑞應)

# 会員だより

## 《家を継ぐこと、血統を継ぐこと》

高田 育明 (昭 51 医)

最近では「家を継ぐ・血統を継ぐ」などという  
と大変古風なことでのようですが、ふと生物学的  
に染色体の観点から想いを巡らしてみました。

ヒトの染色体は、常染色体 (22 対 44 本) と性染  
色体 (X, Y) に分類されま  
す。XY が男性、XX が女性です。

X1Y1 の男性と X2X3 の女性が結婚すると、子  
供は、X2Y1、X3Y1 の男性と X1X2、X1X3 の  
女性が生まれます。

同様に系統図を描くと理解が簡単ですが、X2Y1  
の男の子が X4X5 の女性と結婚すると、その子供  
は、X4Y1、X5Y1 の男性と X4X2、X5X2 の女  
性が生まれます。

このように Y 染色体があると男性、無いと女性  
と外見から染色体の遺伝形式が判断でき、男性に  
はその父親の Y 染色体が次々受け継がれることにな  
ります。減数分裂の段階で交叉により染色体の  
部分交換がおこることもあります。

女性の X 染色体の遺伝形式は、X1X2 の女の子  
と X6Y2 の男性と結婚すると X1X6、X2X6 の女  
性と X1Y2、X2Y2 の男性が生まれます。

このように考えていくと、個別の X 染色体 (常  
染色体も同様) がどのように子供に伝わっていく  
のか、外見上判断が出来ず、また祖先の X 染色体  
が受け継がれる確率が世代を重ねるごとに低くな  
っていくことが分かります。

昔の人は染色体の知識を持ち合わせていません  
でしたが、経験的に男系で血統を継ぐことを選択  
していたと考えられます。

なお、このことは女性と男性の生物学的特性で、  
男女に優劣が無いことは明らかです。男性はどん  
なに頑張っても子供は産めません。

## ~~タイ旅行記 第 2 弾~~

### 《南国の風に吹かれて》

幹事長 徳丸 公義 (昭 54 商)

神戸慶應倶楽部にとって初めての海外ツアーが  
皆さんのご協力により実現した。絢爛豪華な寺院、  
悠久の時を感じさせる荘厳な遺跡群、日々発展を  
続ける喧噪に満ちた大都会・バンコクを擁するタ  
イ王国で過ごした日々を総花的に振り返ることと

したい。

11 月 27 日の朝、神戸慶應倶楽部のおなじみのメ  
ンバーが関西国際空港に集合。井上光さん (昭 35  
法)、浅沼清之さん (昭 36 経)、前田剛資さん (昭  
39 工)、近藤正さん (昭 39 商)、芦原直哉さん (昭  
50 経)、池田雅彦さん (昭 39 工) の各ご夫妻とい  
ったメンバーに善塔勝一郎さん (昭 40 法) と古武  
由紀子さん (昭 40 文) と私である。池田さんと芦  
原さんご夫妻は現地集合とあいなり総勢 15 名とな  
った。

旅客機は 6 時間余りでタイ国際空港 (ドン・ム  
アン) へ到着。日本はそろそろ寒くなるだろうとい  
う時期であるが、さすがにタイは南国、むっとす  
るような熱気に包まれている。ホテルはメリタス  
スイートで 5~6 人は泊まれそうな部屋の広さと充  
実した設備に満足。皆、疲れたのでマッサージの  
人をホテルに呼ぼうということになった時の某氏  
の「マッサージならば若い女性がいい。」との発言  
には奥様も絶句！なんとも正直な発言に一同爆笑  
した。翌日は、チャオプラヤー川の水上バスで寺  
院を巡る。善塔さんは水上の物売り船から念願の  
ドリアンを購入した。早速割って皆で食べる。ね  
っとり濃厚な舌触り、ほのかに甘く何とも形容し  
難い不思議な味覚に包まれる。これが日本では 1  
つ 3 千円から 4 千円するという果物の王様ドリア  
ンだ。においが強烈なはずであるが、季節外れの  
せいかさほど気にならなかった。到着した暁の寺  
(ワット・アルン) は、仏教の魂が漂うトンブリ  
王朝の守護寺。陶器の破片に覆われた高さ約 76m  
の大仏塔は、朝日を浴びると神々しく輝き、その  
姿が寺の名称の由来だ。午後からはタイで最高  
の格式を誇るエメラルド寺院と歴代の王により建  
立されたきらびやかな宮殿群からなる王宮へ。王  
宮には歴代の国王がラマ 8 世の代まで住んでお  
り、建物と調度品には金や宝石が散りばめられ、  
権力と財力の象徴となっている。夜はいよいよ  
バンコク三田会との交流会である。バンコク三  
田会は会員数約 170 名と海外の中でも相当の規  
模であり、交流会開催の窓口になって頂いた鈴  
木保雄さんと会長の小野雅司さん (バンコク日  
本人会の会長も兼務) と固い握手を交わす。同  
三田会にとっても



こうした日本から三田会が団体で来訪するのは初めてとのことで先方から交流会には25名の方が出席して下さった。夕食をご馳走になり、会話の花があちこちに咲く。神戸にかかわりのある人も多くおられ、来日の際には再会を期すこととした。ささやかなお返しとして神戸慶應倶楽部からは持参した塾歌の入ったCDと小ぶりの塾旗を差し上げる。記念写真の後は恒例の「若き血」を合唱。単に同じ大学をたまたま卒業したというだけでこうして暖かく迎えていただき、ひたすら感謝！感謝！の熱き思いに包まれたのは神戸からの参加者全員であろう。感激のあまり眼をうるませる人も・・・。慶應義塾は本当にありがたい。なお、バンコク三田会のホームページは、以下のアドレスである。神戸慶應倶楽部との交流会の時の写真も掲載されているので是非一度ご覧いただければ幸いである。

<http://www.bangkokmitakai.com/index.htm>



3日目は、北へ向かう。途中17世紀に山田長政がその名を馳せた日本人町の跡地と国王の別荘であったバン・パイン離宮に立ち寄る。広大で美しい庭園内にヨーロッパ、中国、タイの各様式を取り入れた構築物が点在している。ふと見ると水辺に動く大きな爬虫類が。ワニだ！いや、オオトカゲだそうだ。遠くから見ると動く姿はワニそっくりだ。いよいよ世界遺産の古代都市アユタヤへ。14世紀から18世紀

にかけて35代の王が勢力をふるったアユタヤ王朝。異形ともいえる不思議な形の仏塔を中心とした遺跡があちこちに立ち並ぶ。かつては栄えたであろう街も長い時間の中に埋もれ今では廃墟と化した。こうして遺跡の間を黙々と歩き、まぶたを閉じれば、当時ビルマによって滅ぼされた遺跡群が、歴史の興亡を静かに我々に語りかけてくる。それにしてもタイは本当に仏教が盛んだ。この遺跡にある大木の幹に石の仏像の顔（ワット・プラ・マハタート）が埋め込まれており、その姿は畏怖そのもの。ここでは誰もが敬虔になる。我々日本人とて例外ではない。



夜はタイ料理をいただく。タイ料理は、近隣に位置する中国、ベトナム、マレーシア、ラオスなどの影響を受けながら生まれてきたとても奥の深い料理で、「甘い」「辛い」「酸っぱい」という一見矛盾しそうな味が、多様なハーブやスパイスを使用することによって、絶妙な味のハーモニーを生み出している。代表的なものがトムヤンクンという辛くて酸っぱい海老のスープ。世界3大スープのひとつとか。食事の後は、ナイトコースへ。タイ古典舞踊と思わず見とれるぐらいに美しい？ニューハーフによる歌と踊りのショーの二組に分かれてそれぞれの夜を堪能した。どちらに誰が行ったのかは皆様のご想像にお任せすることとしよう。

翌日はタイ最終日。再びバンコク市内を巡る。全長49mの寝釈仏像のある涅槃仏寺院（ワット・ポー）、ウィンマンメーク宮殿と博物館、時価120億円とも言われる黄金の仏像が擁する黄金仏寺院（ワット・トライミット）



とめまぐるしい動きにぼちぼち疲れが出てきた。たくさんのお土産と心一杯に思い出を詰め込みいよいよ帰国だ。タイよ、ありがと。そしてラーゴーン

(さようなら)。夜中の便で発ち、関西国際空港へは12月1日の明け方5時過ぎに到着。皆様お疲れ様、無事帰宅できたのがなによりだ。さあ、これから仕事へ直行だ。

## ちょっと一言

高嶋 哲夫 (昭48工)

まいど、お騒がせします。2月2日発売の『ヤングジャンプ』に、僕が原作の漫画が掲載されています。いままで本になったものでなく、書下ろしです。

『anim.』巻頭カラー49ページです。描いているのは八坂考訓さん。『キマイラ』を描いた漫画家さんです。すごく、才能がある方です。原作より、面白い。東京に巨大地震が……しかも、ただの地震ではなかった。東京は……。ぜひ、お読みください。でも、「アニマート」ってどういう意味だろう。聞いておけばよかった。たぶん、音楽用語だと思うけど……。3月に、新書が出ます。またお知らせします。

## 同好会だより

### KKJC

横田 洋子 (昭49文)

阪神淡路大震災から11年目となった2006年1月13日(金)、西宮上ヶ原の関西学院で行われた「K.G. OB&OG JAZZ NIGHT」にKKJCのお仲間と行ってきました。

阪神淡路大震災メモリアル・チャリティイベントとして行われていた関学OBだけのコンサートに、4回目の今回は慶應OBが友情出演する事になったもので、お客様はほとんど関学関係者。わが塾からは10名ほどでした。

関学OGの小山乃里子さんの軽妙な司会で幕が開け、第1部は関学OBのJazz Combo、第2部が「慶應OPスーパーバンド」、第3部は関学OBのBig Band Jazzと、各々が素晴らしい演奏を聞かせて下さいました。慶應OP(Old Persons)スーパーバンドのメンバーは鍋島直昶さん、中西直行さん、嶋中潤

さん、澤崎至さん、小川理子さん。なんといっても圧巻は、昨年傘寿をお迎えになられたビブラフォーンの鍋島直昶さんと関学OBのベーシスト宮本直介さんお二人だけの「酒とバラの日々」。また、小川理子ちゃんのピアノとボーカルなど…。最後には両校全員で「On the Sunny Side of the Street」を仲良く演奏され、両校の熱の入った演奏に胸が熱くなり帰路につきました。

♪ジャズのお好きな方はご一報ください。

世話人：近藤 正 (昭39商)

### PC同好会

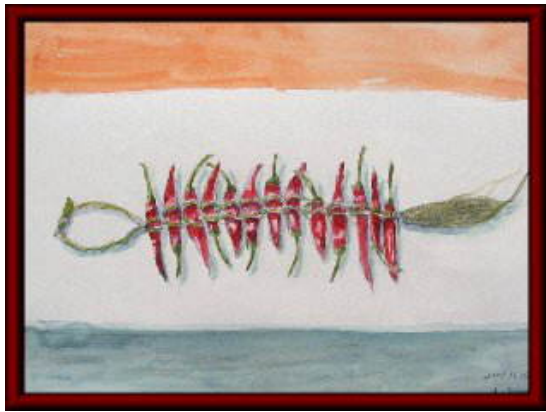
田嶋 紀雄 (昭38工)

1月23日(月)夜6時半～倶楽部ルームで新年会が開催されました。参加者は12名。私は堀さんに入会を勧められ同好会の状況を知るための初参加、顔出しの参加でした。今回は新年会という事で、すでに寿司とつまみとお酒で話が始まっていた。PC同好会とは話の内容から私なりに解釈をすると、PC関係の情報交換(お勉強)、個人的に困っている問題の相談と解決、お酒を楽しみながら時事問題の議論(雑談、親睦)、こんなことをする会であろうと思う。今回は、

- ①最近「架空の女性」からのお誘いの迷惑メールが沢山来るが、これを排除する方法の議論。近藤さんからプロバイダーにアクセスして排除する方法の説明があった。
- ②芳川さんが自分のメールアドレスが芳川-1、-2、-3と3つに増えてしまったがどうなっているのかとPC持込みで相談があり市川世話人によって約1分位で問題が解決した。ニコニコ顔に変わり、楽しく食事。
- ③雑談。二次会の場では、この日はホリエモンの逮捕ということもあって時価総額など時事問題の議論に花が咲いた。

メンバーの殆どがPCについては素人であると判明したので一先ず安心し、次回から参加させて頂こうと思った次第です。自分でPCをやっている素人の方は参加すると色々情報が得られるし、困った時には問題が解決できて役に立つかも知れません。

《今月の絵》



井上 光 (昭35法)

～～2月例会のお知らせ～～

日時：2月16日(木) 18:30より

倶楽部ルームにて開催

会費：2,000円

～～今後の行事予定～～

3月例会 3月24日(金)18:30より

場 所：東天閣

会 費：男性 8,000円

女性・卒後10年未満 7,000円です

詳細につきましては、BRB・メールマガジン等  
でお知らせしますので、毎月ご確認ください。

マジック同好会

次回例会は2月10日(金)18時の予定です。  
トランプマジックをやります。材料費3000円

世話人：塚本 明久(平9総)

——訃報——

木全 良治会員(昭30法)

10月10日ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。  
合掌

～春の慶早ゴルフ対抗戦のご案内～

日 時：4月4日(火) 集合9:20

場 所：廣野ゴルフ倶楽部

〒673-0541 三木市志染町広野7-3

電話：0794-85-0123

スタート：アウト、イン 10:00

会費：6,000円(パーティー代、賞品代)

プレー代、昼食代は各自でお支払い下さい。

お問い合わせは担当幹事森本 泰暢(昭60法)

お申し込みは事務局まで。

～～事務局よりお願い～～

- ◎ 例会等にご出席の会員さまはお食事等の準備の都合がありますので、事前に事務局までお申し込みをお願いします。なお、連絡なしで当日欠席された場合はキャンセル料を頂く場合がございますのでご注意ください。
- ◎ 住所・電話番号・メールアドレスの変更がある場合は、その都度必ず事務局にお知らせください。

皆様の投稿をお待ちしています。  
「BRB」についてのご意見、ご感想もお聞かせください。  
堀 友子  
八巻晤郎

編集後記

○世の中いろんなことがあり過ぎて、気が滅入ることばかりです。倶楽部では、年が明けて益々活動が活発になってまいりました。このオアシスで心置きなく仲間と憂さを晴らして爽快になりたいものです。誌面でもその一助となれば編集冥利に尽きるというもの。(ほ)

二月、プロ野球のキャンプがスタート。寒い日が続いてもキャンプ情報を聞くだけで春が近づいてくる感じがする。大寒気団に覆われたこの冬、各地で記録的な寒さや雪害が多発したがそれも峠を越した模様。神戸の春一番である神戸空港の開場がどんな新しい風になるか楽しみです。(晤)